夕刊 磐城新聞
一月四日發行
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇一六•五八五五番

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晩も明日も北西の風晴

鳥取遊記（一）

島田忠夫

◎山陰の旅

山陰の旅は、初めてである。北陸へは先年行つてゐるが、さて鳥取まで行くとなると、仲々どうして、チヨツトおつくうである。

ところが、私の畫のファンで、私とは生活の段階の多すぎる位資産のある德田文郷といふ知人から、鳥取附近の風光を見たり、畫をかいたり、個展でもやり乍ら出かけて來ないかと、誘ひがあつた。

×

尤も、之れだけでは或は腰が、もち上らなかつたかも知れぬが、『酒も仲々美味に候』とあつたので、さてこそ愈々、鳥取へ出かけることになつた。十一月十四日の夜である。

東海道線を夜行でくだり京都で山陰線に乘りかへた。保津川に沿つた京都附近の晩秋の眺望は、又一しほと云へる。鳥取へは、十五日の午後二時半ごろ着いた。

×

所で、ここで少し説明したい。それは鳥取の友人のことである。德田文郷君が私の日本畫のファンで、平のマルトモの個展の直前にも七八點注文して呉れた。畫料も充分に下さるわけだが、さて、未だ一面識がない。ずいぶん呑氣な話だ。

それゆゑ、鳥取驛へも迎へに來て呉れるのか、呉れないのか、その見當もつかな[illegible]。[illegible]、なんとかなら[illegible]……他のものであつた。

×

斯う[illegible]三等車[illegible]ブラリと降[illegible]私[illegible]物を二つかゝれてぶら／＼歩き出した。すると、十人許りの人間のかたまりが、みすぼらしい貧乏歌人兼貧乏畫家の私を取りまいた。

『あなた島田君ですか』

これは德田文郷氏であつた。

『ぼく村田です』

と、歌人の村田蕉吉氏も出てゐた。清水病院長清水久雄氏、鳥取商業の柔道五段池本和美氏、大佐夫人、女流歌人Mさん、ほか[illegible]女流二三人。白足袋の表具師『丸由』デパートの宣傳部長。

×

これにはてれて了つた。

德田氏とは長い交際をしてゐるが、百姓で、繪が好きだといふ外に知らない。私の畫を特に好んで、ずゐぶん生活の資をたすけて頂いてゐるが、單に鳥取のお百姓さんとしか知らない。所がこのお百姓さん、この日は黑羽二重の羽織、仙台平の袴、白足袋をはいてゐた。ひげもきちんとしてゐる。

驛を出ると

『この驛前のデパートで、一寸お茶を上つて下さい』

斯ういつて出迎へて呉れた一同を招じた。仲々話せる百姓オヤヂであるわい、と私は腹の中で驚いた。そして、汚い外套を氣にし乍ら、デパートへ入つて行つた。

新年雜詠

猪狩牧水

○元旦の靜づけき朝よ戸をくれば戸面は白ろし雪の降らへて
○年たちて我が來し方を振りかへり思ひ新たに祈る朝かな
○大ほらかに今し出でにし初日なり心安らにおろがみにけり
○人の世に名を成し得ねど恙なく祝ふ雜煮に心は滿てり
○朽ち果てゝ訪ふ人もなき山の家に賀狀來ませり三、四なれども
○氣つかひつ都へやりぬ妹ゆ友と羽根つく寫眞送り來
○大ひなる望はなけれどひたすらに我が喜びの年にてあれかし
○日だまりの原に凧ぐ街の子に日數多くまゝに友となりけり

その日

1月5日

△津浦線鄒縣落城（昭和一三）△楠正行四條畷ｌ戰死（正平三）△乃木大將ステツセル將軍と水師營の會見（明治三八）

○

正月は皆あそぶ日の初暦　宋斤

戊寅身歳暮書感

珠雲　小野務平

窮陰鹿寄太紛然
銃後更期團結堅
看取人々克歎志
去華就實異前年

講談 隠密小天狗（おんみつこてんぐ）

(203)　中川雨之氏作　近藤識氏畫

府中泊り

彼女は、すべて正雪の命令通りであつた。意地の張りの強い彼女でも、不思議と脱殼のやうに、意地も反抗心も失つて、眼は明いてゐるが心は昏々と眠つて居る人のやうであつた。

そして、その碧色の液體が、咽喉を通つて腸に浸込むと、彼女の氣持は春風にでも包まれてゐるやうに、俄に動悸めいて、總身の血が、怪しく狂はしき迄に騷ぎ始めたのであつた。

お仙は堪へられなくなつた、そのまゝぐつたりと椅子から滑り落ようとしたが瞬間、正雪の手に、堅く抱き留められたのである。

細々と見開いたお仙の眼の前に色の白い美しい正雪の顔が近々と差寄せられて居た。魅力に富んだ瞳、花片のやうな唇。

暫らくの後、お仙はたうたう正雪を忘れることのできない女になつて居た。

弟新八のことも、小夜美のことも、何もかも忘れてしまつて、彼女はもう正雪屋敷を離れられない氣持に捉はれて居た。

强烈な南蠻酒と、美貌の力とに依つて、お仙の魂を捉へた妖術？

それが、秘密の漏洩を防ぐため、正雪の撰んだ、最後の方法であつた。

× × × × ×

熊谷、加藤の一行は、東海道をだん／＼西へ進んで今日はいよいよ駿河の府中に到着、城下の入口にある永樂屋といふ旅籠屋へ泊ることになつた。

府中は、やがて總大將の正雪が乘込んで來て、陰謀の烽火を揚げる處である。東海道筋目拔きこの繁華な町にも、遠からず血煙の火の粉が降るのかと思ふと一行はさすがに感慨無量であつた。

ところで、兎角男の心を放縱にしたがるのは旅である。そこへもつて來て、一行の頭分熊谷三郎兵衛といふ男は、その男振が災して、もと／＼女好きで放蕩癖のある男であつた。

初めの内は、さうでも無かつたが、段々江戸を離れるにつれ地金を現し、泊り／＼では飯盛風情をすら相手にして、酒色に耽りつづけた。

誰も喧しく云ふ者は無し金は、正雪から貰つた大金を所持して居ることゝて、好きな眞似が出來たのである。

只だ、心待ちにして居るのは、小夜美の始末を付けて來ると言つて小田原から引返した裟婆つ小僧からの吉左右であるが、どうしたものか今以て便りがない。それがため、いくらか足が遲れて、この府中着も、豫定より二日遲れたのであつた。

偖て、永樂屋に草鞋を脱いだ三郎兵衛。一ト風呂浴びて、晩酌の酔に陶然となると、サア例の虫がムジ／＼として堪らない。

それに、この府中には有名な二丁町の遊女屋が在る『府中へ行つたら、二丁町で遊ばう』

それが途々、三郎兵衛の樂しみであつた。

だが一人では面白くないそこでたうとう、相棒の加藤市右衛門をも口説き落して、二人コツソリ二丁町へと繰出した。

ところが、この一行が着いてから間もなく、おなじ永樂屋へ、草鞋を脱いだ若い男女の二人連がある。

それは大磯の山王の社で小夜美を失ひ、平公に別れそれから夜を日についで、一行の後を追ひかけた圭之助に、駒路であつた。

根本産婦人科醫院
（病室完備）（入院隨時）
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番

外科、內臟外科、エツキス光線科
新設 産婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
入院隨意
平市田町
安齊醫院
電話四七五番

ダイナモ
バツテリー
四氣筒六氣筒
マグネツト
礦山用エンヂン
久野電機
平市紺屋町五三
電話七二一番
振替東京一五、一〇四番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 計量器
モノサシ マス ハカリ
体温器 寒暖計
秤ノ取緒垂糸・修繕致シマス。
關内藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科專門
平市南町一六番地
（入院隨意 病室完備）
大和田醫院
電一七〇番

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生
電話九二五番
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

タヒ 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝柱
冷カツノコ ウニ貝燒
魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

晝夜診療
外科一般 內臟外科
レントゲン科 泌尿器科
北川外科
血液檢査每日
◎入院隨時
平市新川町（電四六四）
醫學博士 北川芳夫

實株は買ツテ御手元へ
必ズ儲カル優良株
投資指針
平市四丁目三十三
富岡株式店
電話二五八

生花教授
池ノ坊
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

ラヂオの故障は
放送局指定相談所へ
御買求めは……
測定裝置 技術完備の弊店へ
日本放送協會指定
ラヂオ相談所
HK型受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前 電話四九六番

鑑定項目
名前の一てみの代の運命
何でもわかる……
體力 肉体 疾病（健康、不健康、相貌）（病根病勢、病名）に關する一切
活動 職業 天運（適業、不適業）（天運、成功、不成功、炎厄）に關する一切
血緣 家族運 男女緣（父母の緣、夫婦の緣、子供の緣）、有無（氣質、相性、相剋、婚期方位）に關する一切
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名
日本姓名學會東北支部長
鵜沼孝昌
平市紺屋町 三六

胃腸藥 靈効散 を御試し下さい
或は下痢或は胃腸を害ねたりして三日四日も便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキヽメの早い
胃腸病。心臟病。腦。痔。適應藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げます
ら御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
處方調劑所 阿康藥局
定價 五十錢 八日分 壹圓 廿日分
電話四四番
振替口座東京三〇〇五番
御子様方には飲み易い小兒靈効散があります。

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
營業種目……建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田産・杉四分板 建具材・便利瓦
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ
◎小店員募集
年齡十五歲ヨリ廿歲迄

重田眼科
眼科一般 眼鏡檢定
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

賀狀の減に反して好景氣から小包は增

局に反映した今年の春

時局柄當局の方針と云ふ立派な名目の下に、金をかけずに濟むと云ふお誂え向きの條件に拍車されて最初から蔭張りピッチの昂らなかつた今年の年賀狀は、假令之を受けても其儘に濟ますなと云つた樣な鹽梅で其の數は豫想通り果然近來に無い一大激減を示した。賀狀氾濫の一とはこゝが收まつた處で平局に於ける本年の實績を見ると（括弧內昨年分△印減率）

特別取扱ひを開始した去月二十日から三十日迄の引受け數五一、七三六通（九四、六五五△四割五分）配達五〇、五二〇（九二、〇二三△四割五分）昨三日迄取扱ひ數引受七九、二九三（一九八、九三三△二割）配達一〇〇、五三二（一五五、四三五△三割五分）

小包は反對に增

現地行きで好景氣から

前記年始狀激減に反し期間中に於ける小包郵便物は客月一日から昨三日迄の取扱ひ數が引受三千五百九十七個で前年の二千七百八十三個より二割九分を、配達八千百七十三個は之亦前年の七千百五十個より四分を何れも增加した。軍需景氣の奔騰と現地へ差立ての多かつたに起因するものと觀られてゐる

會員八名である

片濱廻り促進

高久村會で決議

高久村では客臘三十一日掉尾の村會を開き、追加更正豫算を附議した上平小鐵道片濱廻り實現の促進動動に就て協議した

正副議長追加寄附

市公會堂の建設に就ては曩に野崎議長から二百圓、遊沼副議長から百圓を寄附したが今回更に追加として議長百圓、副議長五十圓を寄附した

。。。。。。

米穀調査員更迭

郡下の米穀調査員中左の如く變更（カッコ內舊調査員）△四倉町小林瀧夫（宮澤正己）△江名町杉田健一（小泉安雄）△小名濱町小泉安雄（黑澤島雄）

轢逃げ事件急速解決

幸先きよい新春捜査陣

元日午後六時半頃郷村御內旣國道で同村久世原元鐵道員先綺馬三郎(五八)が頭蓋骨を粉碎慘死してゐるを屆け出によつて平署では自動車の轢き逃げと睨み疾風的活動を續けた結果翌二日午後九時犯人湯本町坂本淺吉方貸切運轉手山形縣西村山郡生れ齊藤惠次郎(二八)を檢擧幸先きよい捜査陣にドッと凱歌があがつた

〇

犯人齊藤は同夜湯本町料亭蔦本から乘客一名を乘せて平方面にハイヤーを飛ばし前記個所にさしかゝつた際年始酒に泥醉歸途の先綺を轢き殺したが犯跡を晦ますため、素知らぬ態で通過、營業主には町內へ二回程出た如く裝ふて平行きを隱してゐた、同署では苦心の搜査によつて現場附近から事件發生の際壞れたらしいヘッドライトの硝子を發見、これを唯一の證據品として管內自動車の一齊檢索、それとは知らぬ犯人は破壞した船來のライト硝子を和製のものと取りかへ、前記蔦本で藝妓二名を相折に白薬洒をあほつてゐるところを瀬戸部長、棚邊刑事に看破られ、急速解決の運びに至つたもの

事件發生の個所は一昨年舊正月にもさ程隔らぬところで同樣事件が突發、遂に迷宮に終つた『魔の國道』である

豊間村葬

豊間村出身陸軍工兵伍長四家信太郎君の村葬は來る七日正午から同村小學校講堂に於て執行、戰捷二年新春の初頭の公葬として特殊な感激を以て其の日を待たれてゐる

寒い今年の冬

今冬の寒さは前年に較べてずつとひどく、石城二十八日朝零下八度八分を示した神谷農試分場の寒暖計は翌二十九日は更に十度に下つて遂に前冬の記錄たる一月十四日の八度六分を破つたといふが作物方面には先づこれと云つた被害はない

南町の不審火

元日拂曉市內南町鈴木醫院脇板塀附近から發火したが間もなく鎮火原因不明

。。。。。。健康保險產婆指定　內郷村高坂宇御殿西丸カクさんは本縣健康保險產婆に指定された

披露目

藝者の評判

も吉野家から、營を營り大に『あたり』と云ふのがあたりを拂つて颯爽と出現した

芳紀まさに十七歲、こぼれる樣な愛嬌を湛へてゐる

新	一月五日 木曜
舊	十一月十五日
	壬寅
	先勝
	滿
	角宿

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部神誠館

▲一白　諸事進んで吉なる日引込思案は幸福を取逃▲二黑　急いでは事を仕損ずる日何事も靜なるに吉▲三碧　辛抱第一業務に出精せば後に吉となるべし▲四綠　何事もたい忍第一一心に働けば末萬事よき日▲五黃　一時の幸福に迷ふな月もみつれば欠くる也▲六白　利を得んよりは出費を省け妄りに進むは不可▲七赤　進退共に凶なり安靜にして吉日を待るべし▲八白　口は禍の門喧嘩口論をつゝしみ家內和合第一也▲九紫　盛運なり何事も進みて發達す堅實に勵むに吉

新	一月六日 金曜
舊	十一月十六日
	癸卯
	友引
	滿
	亢宿

▲一白　運氣上々吉の日諸事進んで吉慶を受くべし▲二黑　進まんとして進まれぬ日急いでは何凶の日▲三碧　逆運に入らんとす諸事大に注意して行可し▲四綠　大事は小事より起る小事たも疎にせず而吉▲五黃　成功の基は辛抱なり勞苦を厭はず進まれよ▲六白　創案は易く實行は難し諸事始めが大事なり▲七赤　油斷大敵想はざる害あり淺き川も深く渡れよ▲八白　諸事靜かなるに吉なるの日事に行違ある日▲九紫　逆きに至るは始めの一歩から愼まん心をつゝしめ

石城醫師會

十五日總會開催

石城醫師會第三十九次定期總會は來る十五日午後一時市內常陽銀行平支店樓上に於て開催

十三年度前半期庶務、健保事務、診療同上縣醫師會第二十二次定時總會狀況各報告、縣醫師會議員及

ボーナスを私せず遺家族慰問に提供

白木高久駐在巡査の美擧

高久村駐在巡查白木淺長氏(三六)は極めて職務に熱心な好個の少壯警察官たる一面人間味の豊かな溫い心の持ち主として常に部落民の信望を集めてゐるが、此程は客臘中その筋から受けたボーナス全部を擧げ縣社から護符を受け之に紅白の餅を添へ同村應召軍人遺家族全部を歷訪懇ろに慰問の上之を贈つて家族には向後の武運長久を遺族には英靈の冥福を祈つた處から稀に見る篤行として農村の新春に新らしい話題を投じてゐる

蓮沼本社長講演

明後六日江名町で開催

昨年末中平、福島兩市及び各炭礦其他郡下各村部落に於て連續的に前後二十數回に亘り約二萬餘の聽衆に呼びかけて長期建設の時局意識を喚起した蓮沼本社長の鮮滿支產業視察、北支皇軍慰問の講演會は本春早々更に新なる方面からの希望があり、明後六日には午後一時から江名町、同男女青年團主催の下に同町小學校に於て開催する事となつた

あなたの今年の運勢は？

新春踏み出し指針

◇一白　今年の運勢は稍々强過ぎる進み過ぎて、却つて幸福を破るやうなことが起るかも知れない。だから見附けた鹿ならて、追ふのもよいが足元に氣を附けないと、大怪我をする。取引や交際などに爭ひが起り易く、圓滿が望みにくい。從つて、溫和と謙讓の德を以て運勢の好轉を計るが好い。

◇二黑　出でては名をなし、入りては財を掴むといふやうな幸福な年──從つて、何事も進取的になるがいゝ。小さいことに捉はれたり、義理や情實に捉はれて、なすべきことを延したり、昔の儘の狀態でゐては却つて將來發展の邪魔をするといふやうな結果になり易い。新事業の開始や、普請や、住所の移動などは有利である。然し、文書や、印鑑などに注意。

◇三碧　量が過ぎれば袋が破るといふやうな年だから、何事も控へ目にするがいゝ。運氣は衰へて、苦しい立場に追ひつめられる年でもあるから、決して油斷しないがいゝ、また健康上にも障害があるから、攝生しなければならない。要するに、幾度失敗しても、ひるまない精神力を奮び起して、艱難と鬪ひそれを切り拔けて行く覺悟が必要である。

◇四綠　伸びる丈け伸びて、散咲け梅の花といふやうな年だから、今年は物事を急いでやるべきではなく萬事はゆつくり準備を整へてかゝるがいゝ。諺に一文惜しみの百矢ひといふが、目先の小利に迷つて大利を失ふやうなことが起り易い。まだ盜難や、遺失物や、病難などにもかゝり易い兆もあるから、充分氣を附けなければならない。

◇五黃　鬪はなくては勝利がない。總てに强く鬪ひ拔いて、勝利の榮冠を得るといふやうな年である。洋々たる希望が前途に輝やき長い間の考へも一擧に解決出來る力がある譯だから、計畫したことは强引に進めて行つて、固い地盤を築くがいい。從つて、他人の力に賴ると、成功が遲れるから、何事にも自分一人の力を以て鬪ひ拔いて行くことが肝心である。

◇六白　瀧登る鯉の心は張弓の弛めば落つる元の川瀬に──さういふ年だから張り切つてこそ最後の目的が達せられる。金にも、地位にも名譽にも一度決心して着手したらどんな苦難に遭つても何處までも强く鬪ひ拔かなければならない斷じて行へば、鬼神も避くとも云はれてゐるではないか躊躇は却つて悔を殘す恐れがある。正義と信念と努力の三つが勝利の要件なのだ

◇七赤　今年の運勢は吉凶共その極端に發し、一つの動きを境として、明暗二つに分かれようとするやうな傾向がある。憂きことの尙ほこの上に積れかしといふが限りある身の力を試すにはよい機會である、最後の完成を目指して力强く忍ぶがいゝ。弱氣になると外からの壓迫が却つて加重される內の外和といふことに注意する必要がある。

◇八白　總てが新しくなるといふ年である。然し急に發展を望むことはかへつて不利であらう。序科を立てて徐々に事を進めて行けば、必ず報いられるし大きな冒險には大きな成功が約束されから、基礎が出來さへすれば、大々的の活躍を續け、失地挽回の擧に出るがいい。

◇九紫　苦勞知らずの樂は味なしといはれてゐるがよく働き、よく努めてこそその樂しみも倍加される運勢は好轉の波に乘つてゐる況して自然の幸福なぞは待つてゐる時ではない。乘ずべき機會を[illegible]眼の前に轉がつてゐるから、積極的に進んで掴むべきである。何事も圓滿がいゝ。

陣中を聽く

(308)

綠波靜かな湖上に石鐘山の景を眺める

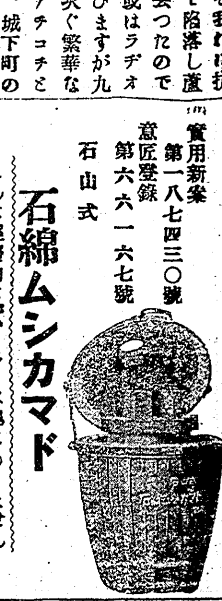
磐城無盡社員　草野準一郎君（通信）（二）

此所は番陽湖の入口で揚子江岸中での絕景地であります。この邊り綠波靜かな湖の水が光り何とも云へない美しさであります。湖口には有名な石鐘山の景は長江岸中の壓卷で文人墨客の幾多來り住んだ處だそうであります。さればこの山の石壁に『いま我石鐘山を去る、何時の日か再たこの地に來るを得んや』と記して逃れ去つた心情も酌むべし、また如何に湖此の口の住民がこれを誇つたかを知る事が出來ます、併し誤れる抗日戰は皇軍の攻むる敵軍敗走し、石鐘山の廟閣高く〇〇旗は湖上の涼風を滿喫して翻つて居ます。船中にて一報を明かし八月四日午前七時湖口を出帆せんとするや、何處よりともなく四、五千米の高度を保ちつゝ敵機三機相次いで爆彈數個を落下し何れとも無く飛び去りました。幸に我れに被害はありませんでした。長江の兩岸には人影もなく只離れた數十頭の水牛が我がもの顏にのんびりと水に侵つて居るのも支那大陸ならでは見られぬ風景であります、同日夕刻九江へ着きました。町の中に在る古びた塔には數個の砲彈の跡も新らしく兩岸には數知れる銃眼がズラリと並び、此の銃眼から盛んに火を吐いた事でせうが無學文盲な勝つた〳〵空宣傳に煽り立てられて督戰隊に監視されつゝ心ならずも銃とる支那の烏合の衆の何ぞ我れに抗すべき、忽にして陷落し盧山の山深く逃げ去つたのであります、新聞或はラヂオで御承知とは思ひますが九江は南京漢口に次ぐ繁華な處外人の住居もアチコチと見受けられます。城下町の感あり、町には綠濃き大樹が暗き迄に生ひ繁り一寸下船して見ましたが生憎コレラ病發生してゐたので二時間程遊んで直ぐ船に引返してしまひました。八月五日〇〇に上陸愈々盧山の頑敵を擊滅すべく攻擊は開始されました。

雲州神國印ソロバン
優勝印高級ソロバン
ニコ〳〵印高級ソロバン
ドンコ帳簿・ライカ帳簿
代理店　魁文堂
ウエル萬年筆
ライトインキ
ムツソリイニペン
ミネラル・カーボン紙

實質サービス
定評有る大塚の靴……特賣
牛革手持ち品豐富に有ります
男女學生靴　紳士靴　小供靴　優秀品安賣
◆月星運動白、黑ズック靴豐富に有ります
大塚へ
平市田町銀座通り
電話七十七番

實用新案第一八七四三〇號
意匠登錄第六六一一六七號
石山式
石綿ムシカマド



こんな經濟的な『かまど』は他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が强く堅牢で火の元絕對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。
和洋銅物　金物問屋
平市五丁目
釜屋商店

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
（看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平市南町電一〇七番）

職工募集
經驗工　練習工　見習工　各若干名
希望者ハ至急履歷書持參來社セラレタシ
福島縣平市堂の前
合資會社　平電氣鑄鋼所

電話五九二番に變りました
食事　喫茶　酒場　を兼ねた
喫茶
レストラン　サロン
平市銀座街

醫學士　吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町　電話六八番